

<h1>Mt.kogashi</h1> <p>NPO法人古賀志を守ろう会          会報誌第3号 発行人 池田正夫          発行日 H26年12月31日</p>	<p>事務局 〒320-0811          宇都宮市大通り 2-4-18          NPO法人古賀志を守ろう会          HP npo-mt-kogashi.jimdo.com          Email npo.mt.kogashi@gmail.com</p>
---	--

## 1 山名板設置完了

古賀志山主稜線のピーク赤岩山・御嶽山、古賀志山頂の三か所に山名板を設置した。認可申請を平成26年8月26日に行い、許可指令書平成26年8月29日付の「宇都宮市指令緑第15号」により作業開始し、設置完了は10月25日。



H26年10月10日 基礎工事  
 全10月16日 沓石固定  
 全10月25日 支柱固定

同会第三号の作品

文字陰刻 三輪健治氏  
 塗装仕上 平野昭夫氏



H26年9月8日 基礎工事  
 全9月13日 沓石固定  
 全9月27日 支柱固定

同会第一号の作品

文字陰刻 三輪健治氏  
 塗装仕上 平野昭夫氏



H26年9月19日 基礎工事  
 全9月30日 沓石固定  
 全10月8日 支柱固定

同会第二号の作品

文字陰刻 三輪健治氏  
 塗装仕上 平野昭夫氏

設置完了に至るまでには、基礎工事に必要な水、セメント、沓石等の荷上げ作業に会員の多大なる協力をいただいたことに感謝申し上げたい。

## 2 旧跡説明板の設置完了

往古から神仏を祀った旧跡滝神社・弁天三社・大日窟にその由来を示す説明板（アルミ板アルマイト加工）を設置した。認可申請を平成26年11月4日に行い、許可指令書平成26年11月7日付の「宇都宮市指令緑第15号」により作業開始し、平成26年11月29日、設置完了した。左写真は設置場所、右はその説明文である。



### 滝神社の由来

滝神社は天仁元年(1108)に古賀志山麓の唐沢中嶋の村民が中当山の南斜面にあった七丈杉の所に日光山瀧尾権現より神霊を勧請したのが始まりと云われる。宝永7年(1710)には正一位 瀧権現との称号を授かったという。享保11年(1726)には参道が整備され石鳥居が建立された。安永9年(1780)中当山の岩が崩れ瀧権現の社が破損したため大杉の所から現在の岩窟に移された。寛政9年(1797)修理のために一時元の大杉の所に移され同年岩窟の所に戻された。文化4年(1807)修復のため再び大杉の所に戻され文化13年(1816)に岩窟のところに移された。度重なる社の移転から訴訟問題が起こり文政2年(1819)評定所から岩窟内に祀る裁定が下され現在に至る。なお明治初年の神仏分離令により瀧大権現は瀧神社と改められた。瀧神社の祭礼はもと旧暦1月14日・15日の二日間行われたが現在は1月の第2日曜日となっている。

NPO法人 古賀志山を守る会



### 大日窟の由来

大日窟の歴史は元禄4年(1691)狩りに来た岩崎村(現日光市)の百姓福田孫右之門が岩窟内に大日如来の後ろ姿を感じて花蔵院の住職に報告したのが始まりである。福田孫右之門は元禄15年(1702)折願成就の石碑を建立した。元禄10年(1697)以降管理をめぐり弘蔵院と花蔵院が対立したが宝永6年(1709)より弘蔵院の管理となった。享保6年(1721)弘蔵院有清法印は出羽国羽黒山寂光寺に向向き常火切火免許を授けられ同年常火屋を建て大日如来の化身不動明王を安置した。それ以降湯の出口をご本尊とする湯殿山にちなみ霊水の湧き出る大日窟を湯殿権現と称した。一方手前を賣の河原と見立て享保9年(1724)守り仏の地藏尊を安置した。安永9年(1780)以降大日窟への参道整備が行われ天明2年(1782)には杉並木が植えられ登り口の権現山に「湯殿山大権現道」の道標が建立された。毎年4月8日の大日窟の山開きには多くの参詣者が権現山から大日窟を目指した。明治維新初年の神仏分離令により大日窟への信仰は衰退した。

NPO法人 古賀志山を守る会



### 弁天・天狗宮・風神雷神の由来

弁天の歴史は享保10年(1725)に古賀志村名主北條伯記がこの岩窟を「無類の霊地」と感じ当初瀧権現の護摩所の岩下(現滝神社の水場付近)に祀られていた弁天の社をこの地に移したのが始まりである。明和2年(1765)にはそれまで寛延元年(1748)以降女瀧の岩窟に祀られていた天狗宮が岩上から大木が落ち破損したためより安全なこの地に移された結果ここに二つの社が祀られたのである。さらに安永4年(1775)にはここに風神雷神のお宮も勧請された。それ以降この地には弁天・天狗宮・風神雷神の三つの社が揃うこととなった。なおその後文政8年(1825)弁天をはじめ天狗宮・風神雷神の社も再建された。湿気が多いため傷みも激しく屋根等にトタン板を補修して今に至る。

NPO法人 古賀志山を守る会

説明板の木枠の製作は会員三輪健治氏、仕上塗装及び弁天三社の支柱製作は平野健治氏の労作による。また設置作業に従事してくれた会員各位の協力に感謝申し上げたい。

### 3 会員数

NPO法人古賀志山を守ろう会の会員数（平成26年12月31日現在）

（1）正会員 61名、（2）賛助会員 個人 7名、団体 3名、総数71名である。設立時に30名で発足した同会は、会員数が倍増したことになる。

### 4 今年度中の予定

#### （1）地名板の設置



#### 設置箇所

- ①籠岩②北ノ峯③猿岩
- ④天狗岩⑤二尊岩⑥中岩
- ⑦雨乞岩⑧中当山⑨観音岩
- ⑩猪落⑪荒沢瀧⑫古賀志山大神

材質は鋼板（横40cm×縦18cm）  
支柱はスチレン角材（3cm×4cm）  
高さ60cm（地上40cm,地中20cm）

#### （2）旧道の整備 定例会 2月28日（土） 雨天準延翌日

旧道の湯殿大権現道及び瀧大権現道ノ階段整備を予定している。この両区間ノ一部には関東ローム層が露出して滑り易い箇所がある。この部分に木材を組み階段を設置したい。丸太材の提供は三輪健治氏である。地主の了解済である。

### 5 次年度の諸計画

#### （1）御嶽山に山座同定盤

古賀志山主稜線の御嶽山に立てば、三百六十度の視界が開け、我が身は栃木県の真ん中に居ると云う錯覚に陥る。西方の足尾山地、北方に日光連山を望み、北東部の高原山から那須連峰、東方の八溝山地のパノラマが楽しめるのは、ここ御嶽山をおいて他にない。御嶽山頂に山座同定盤のニーズがある。これに応じて、山座同定盤を設置する予定である。

#### （2）古賀志山マップノ作成へ

県内に古賀志山ほど四季を問わず多目的に利用されている山は他にない。それだけに警察および消防署の出動回数も多いことも県内随一である。当会は、この現状を鑑み、古賀志マップの作成に向けて、準備会を立ち上げ目下検討中である。

## 6 奇岩シリーズ 馬頭岩



赤岩山から南西に派生する小尾根の先端部の岩壁を通称馬頭岩と呼ぶ。横顔が馬面にそっくりなことからの射的を射た呼称である。この岩の付け根にあるのが風穴であり、その背後の細尾根にあるのが風神を祀る岩屋である。幕末期の慶應四年（1866）、隣村岩崎村の猟師隊が会津藩隊の命により、この馬頭岩の背後から登り、官軍の動きを監視する見張り台となったのは、馬頭岩の中段である。

## 7 古賀志山ア・ラ・カルト

なかあてやま  
中当山



中当山は、古賀志山の中で最も神聖な場所である。東側に男瀧、西側に女瀧を控えるこの岩壁は、往古から唐沢・中嶋の村民たちが畏敬の念を抱いていた。春になると山を下り、秋には山に戻るといふ「山ノ神」が降臨する場所と捉えていた場所である。

中当山岩壁の付け根の小さな岩屋に「山ノ神」が祀られているのは、このためである。中当山と御崎の岩壁は、往古から滝大権現（現在の滝神社）の境内であることには今も変わりはない。時は移り、この神聖な岩壁には県内外から多くのロッククライマーが訪れている。

余白

当会のロゴマークを募集中

会員の皆様から斬新なアイデアを募っています、事務局まで。